

渋田建具製作所  
代表 渋田重幸さん



伝統的な建具の世界にあっても  
いろいろなアイデアを盛り込む



▲現在試作中の作品

「嬉しいですけど、まだまだ実感がありませんよ。」と穏やかに喜びを語られるのは、渋田建具製作所の渋田重幸さん。六月に徳島市で開かれた全国建具展示会で第二部（高級一般建具部門）で、最高賞の経済産業大臣賞を獲得された。

これまで全国建具展示会に八回出品してきたが、すべて入賞するという素晴らしい実績を持つ。七年前には第二部で全国三位の林野庁長官賞を受賞している。

高い評価を受ける作品作りにはどんな秘密があるのだろうか。

渋田さんは「うちの作品の特長は独創的なデザインにあると思います。伝統的な建具

の世界にあっても、いろいろなアイデアを盛り込むように心がけています。」と語る。でもデザインの感覚をどのように育んでこられたのだろうか。

「デザインは感覚ですから、自分でもはっきりとしたことはいえませんが、若い頃から良い作品をたくさん見るようにしてきたことはあったと思います。日展作家の岳野さん（大川市在住）とは三十年來の友人ですが、彼と連れだって、毎年のように日展、新日本工芸展や地元の展示会などよく見に行ったものです。」  
宝石鑑定士の話を思い出した。彼らは訓練の際、とにかく本物をたくさん見るそうだ。そうすると、偽物、粗悪な毛

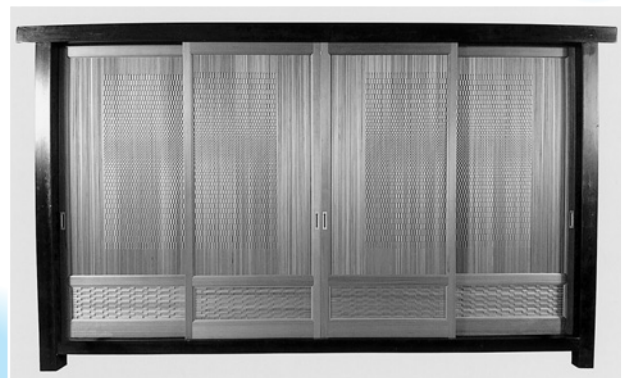
全国建具展示会  
第二部（高級一般建具部門）  
最高賞の経済産業大臣賞



いいモノを造る別の要素として  
「集中力」が大切



在宅資材新聞長賞



伊万里市長賞

ノを容易に見分ける感覚が身に付くという。どの分野でも良いモノをたくさん見ることが良い感性を磨く事につながるのだろう。

浜田さんは組子細工を使った製品作りを行っているが、細部にこだわった美しさと言ふより、むしろ味わい・趣のある作品作りに努めている。

「難しいことではありませんが、その味わいが多くの人々の心の琴線に触れ、感動をもたらすのではないのでしょうか。」

いいモノを造る別の要素として「集中力」を挙げてくださった。それはすべての工程に関わるもの。「いい材料にはこだわります。仕入れの際、木の持つ色合い、柎目など細かい部分に目を光らせます。そしてそれらを慎重に自然乾燥させます。そしてその製品ごとにふさわしい材料を選択、そして作り上げる際にも、決していらいらしたりせず、気を落ち着かせて集中します。」

やはり集中力を高めることが大切なのだ。

浜田さんの作品には、独自のデザイン、味わい、集中力を発揮した取り組み方が高い評価を受ける源となっているようだ。

夢を聞いてみた。

「全国建具展示会の二部で過去一位と三位を獲得してきましたので、今度は二位の農林水産大臣賞を狙おうかと思えますね。…それは冗談ですけど（笑い）。でも今後も高く評価していただける作品作りに精進していきたいと思っています。」



◁林野庁長官賞